

決算説明資料

(2017年12月 第2四半期決算)

2017年8月4日
東証2部

オーナンバ株式会社

目次

ONAMBA CO.,LTD.

I . 決算の概要(PL、BS、CF等)

II . 2017年度上半期のトピックス

III . 2017年度下半期の取組

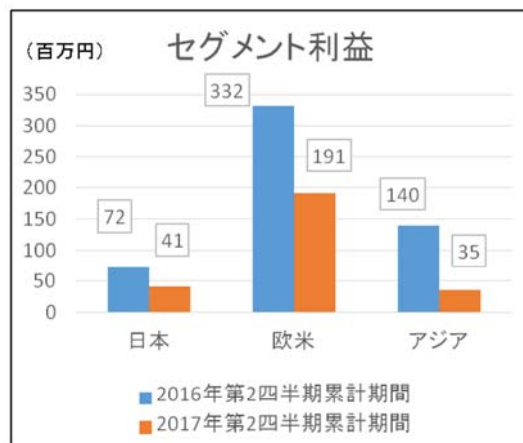
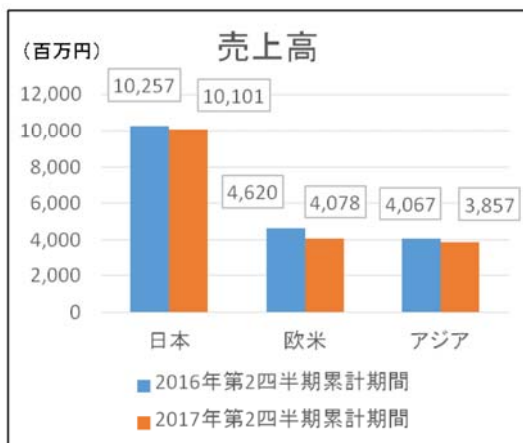
〔連結損益〕

(単位:百万円)

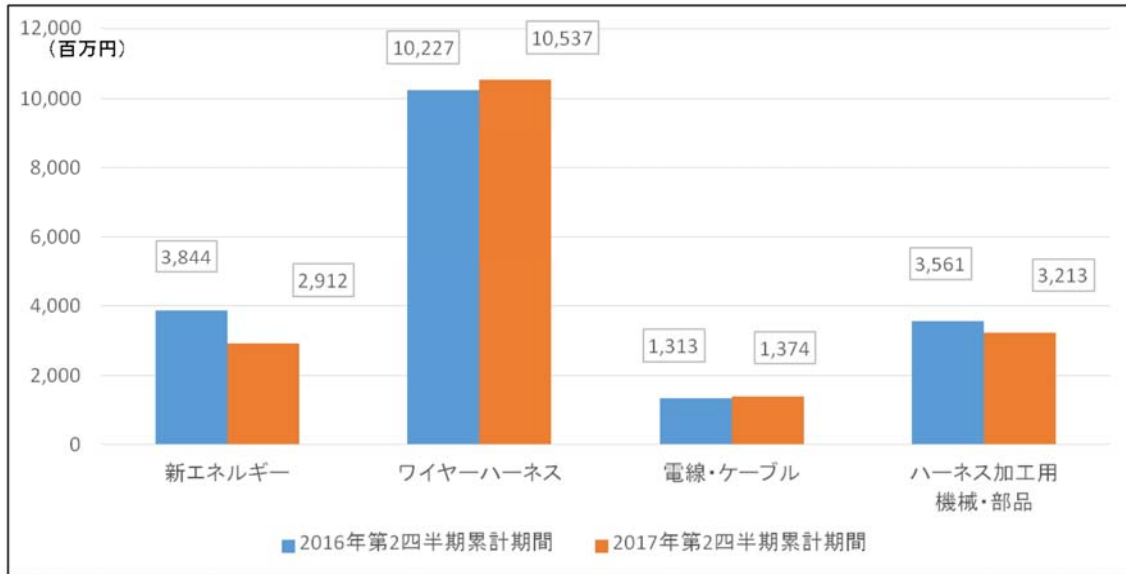
科目	2016年第2四半期累計期間		2017年第2四半期累計期間		増減		2017年2月3日 公表した業績 予想数値
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
売上高	18,945	100.0%	18,037	100.0%	△907	△4.8%	17,000
売上原価	15,530	82.0%	14,966	83.0%	△563	△3.6%	—
販売費・一般管理費	2,844	15.0%	2,814	15.6%	△30	△1.1%	—
営業利益	570	3.0%	257	1.4%	△313	△55.0%	430
営業外収支	△115	△0.6%	△9	△0.0%	108	—	—
経常利益	455	2.4%	247	1.4%	△205	△45.6%	430
親会社株主に帰属する 四半期純利益	37	0.2%	48	0.3%	10	28.9%	230

- 《売上高》 重点分野の自動車用・産業用ワイヤーハーネスなどの拡販により、業績予想数値は達成した。前年同四半期売上高に対しては、太陽光発電関連製品の売上高減少をカバーできず4.8%減少した。
- 《営業利益》 太陽光発電関連製品の売上高減少及び品種構成の悪化などにより、営業利益は減少した。
- 《四半期純利益》 貸倒引当金の計上もあったが、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期より増加した。

セグメント情報

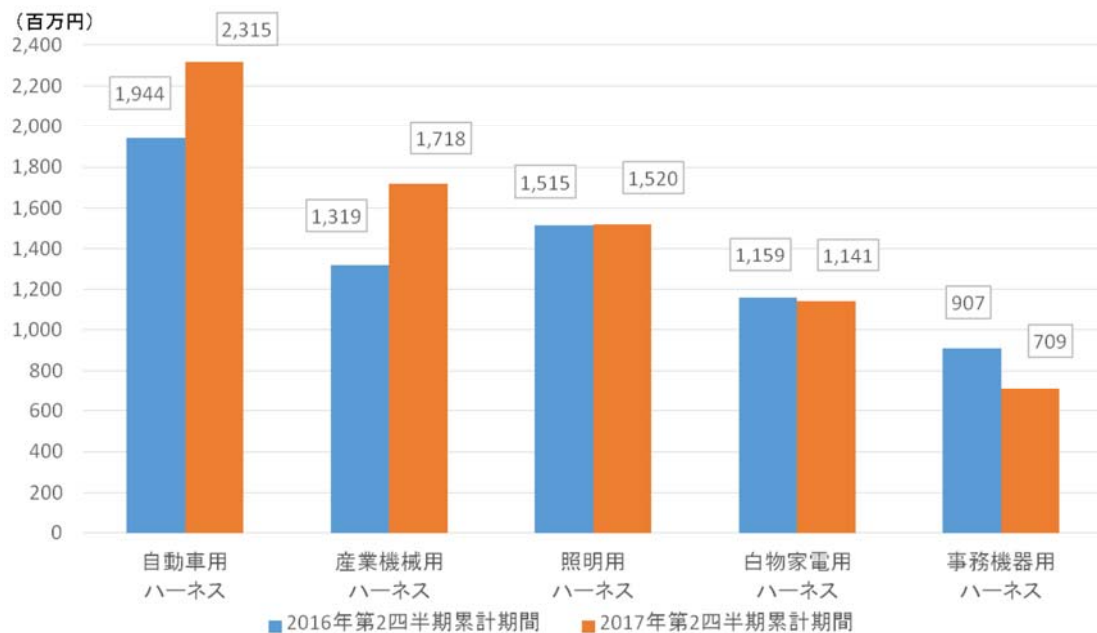


- 《売上高》 日本は、太陽光発電関連製品は減少したが、ハーネス加工用機械・部品の売上高が増加したことにより微減に留まった。欧米は、自動車用ワイヤーハーネスは増加するも、太陽光発電関連製品の減少により、売上高は前年同四半期より減少した。アジアは、産業用ワイヤーハーネスは好調に推移したが、ハーネス加工用機械・部品製品の減少により、売上高が減少した。
- 《セグメント利益》 日本は、太陽光関連製品の売上高減少及び開発投資が増加したことによりセグメント利益は減少した。欧米は、太陽光関連製品の売上高減少によりセグメント利益は減少した。アジアは、太陽光関連製品の売上高減少による大幅な減産により、セグメント利益は減少した。



新エネルギー部門の売上高は、太陽光発電関連製品需要の更なる低下によって前年同四半期より24%減少した。
 重点事業のワイヤーハーネス部門は、欧米が好調に推移し3%増加した。

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高



ワイヤーハーネス部門の重点取組分野である自動車用ハーネスは、欧米を中心に好調に推移し前年同四半期売上高より19%増加した。
 産業機械用ハーネスは、日本及びアジア地域の増販により売上高が30%増加した。

◆設備投資

有形固定資産取得額	364百万円
減価償却費	264百万円

(主な投資内訳)

・国内子会社のハーネス加工用機械・ 部品の製造設備等	131百万円
・国内子会社の電線製造設備等	70百万円
・北米子会社のワイヤーハーネス 製造設備等	40百万円

◆人員の推移

(人)

2016年12月末	2017年6月末	増 減
4,247	4,233	△14

(増減理由)

主として、ベトナム子会社はワイヤーハーネス製品の生産能力増強により増加したが、その他アジアでの減少により微減となった。

7

連結財政状態(主要な科目)

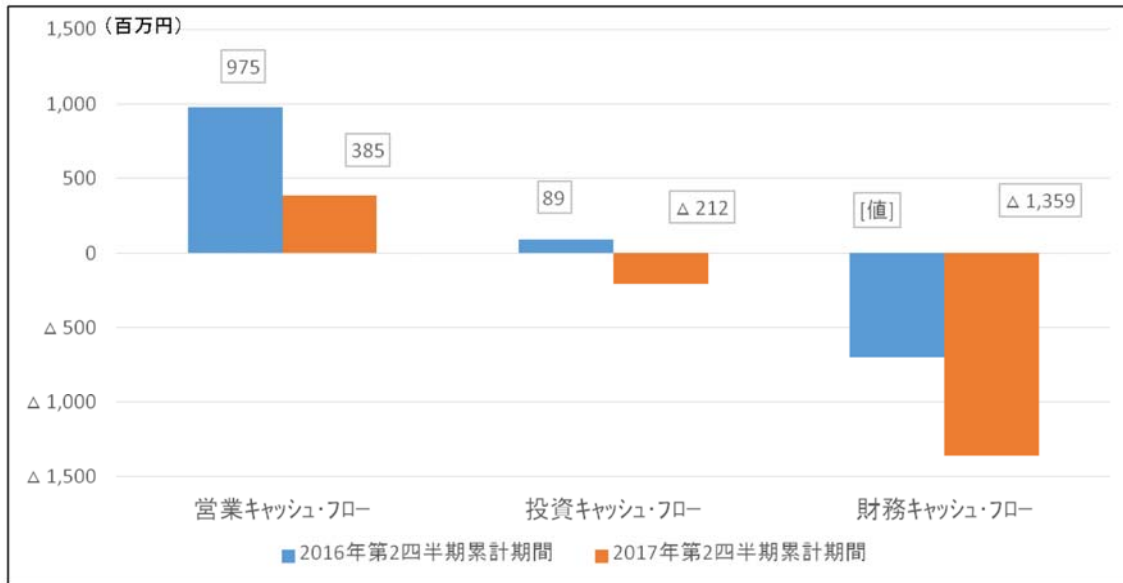
ONAMBA CO.,LTD.

(単位:百万円)

科 目	2016年12月末		2017年6月末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	22,914	76.5%	21,525	75.3%	△1,388
(現金及び預金)	6,049	20.2%	4,799	16.8%	△1,250
(売掛債権)	10,990	36.7%	10,391	36.4%	△598
(たな卸資産)	5,321	17.8%	5,796	20.3%	475
固定資産	7,037	23.5%	7,046	24.7%	9
(有形固定資産)	4,998	16.7%	5,001	17.5%	2
資産合計	29,951	100.0%	28,572	100.0%	△1,379
負債	14,617	48.8%	13,293	46.5%	△1,323
(買掛債務)	6,296	21.0%	6,147	21.5%	△148
(有利子負債)	5,822	22.8%	4,574	16.0%	△1,248
純資産	15,334	51.2%	15,278	53.5%	△55
負債・純資産合計	29,951	100.0%	28,572	100.0%	△1,379

グループ内資金の有効活用を図り、有利子負債の圧縮を進めた結果、総資産は減少し、自己資本比率は49.2%から51.3%へ上昇した。

8



営業キャッシュ・フローは、四半期純利益の減少や運転資金の増加により385百万円の収入に留まった。
 投資キャッシュ・フローは、有形固定資産取得の増加により212百万円の支出となった。
 一方、財務キャッシュ・フローは、短期借入金の返済を積極的に進めた結果1,359百万円の支出となった。

Ⅱ. 2017年度上半期のトピックス

1. メキシコ第2工場の第2期工事完成。
2. 新製品開発
 - ・ボイラー監視システムの開発・販売。
 - ・車載カメラ用同軸ケーブルの開発・上市。
 - ・IoT-GateWay (IoT-Finder™) の開発・上市。
3. 営業力強化を目指した営業組織の改編。
4. 経済産業省の受託事業に採択された(株)三菱総合研究所に
 当社の「計測データの故障予兆技術による電気施設保安技術
 高度化の実現検証」が承認され、実証検証を開始。

1. 事業拡大に向けた取組強化

- ・自動車・産業用製品の開発と市場開拓強化。
- ・システム事業の推進。

2. グローバル事業改革

- ・グローバル企業に対する営業力強化。
- ・グローバル生産拠点連携と競争力強化。

3. ものづくり力の強化

- ・ワイヤーハーネス生産管理システム(ORP)のグローバル展開。
- ・新教育制度のグローバル展開。
- ・生産設備自動化のグローバル展開／加速。

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。